学校番号	3032B

令和８年度　公民科

教科	公民	科目	公共	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「高等学校 公共 これからの社会について考える」　（数研出版）						
副教材等	「クローズアップ公共 2024」（第一学習社） 「高等学校 公共 整理ノート」（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・先哲の思想や政治・経済に関する基礎的な用語や考え方等を学び、日本や世界の諸課題について考察していきます。授業プリント・副読本等を活用し、復習をしながら学習を進めてください。
・新聞やニュースを活用し、時事問題についても適宜学習する予定です。自分の意見を自分の言葉で表現できるように取り組んでください。

2　学習の到達目標

・責任ある主権者として行動できるようになる。そのために、日本の政治・経済の仕組みを理解する。
・先哲の思想や考えについて理解を深め、現代に生きる人間としてのあり方について考える。
・国際社会の一員として、国際政治・国際経済の仕組みや問題・諸課題を理解し、自分自身との関わりについて意識したうえで考える。
・現在生じている日本国内外の時事的な問題・諸問題等について興味・関心を持ち、考察し、自分自身の意見をまとめて表現することができる。
・学習内容を踏まえ、習得した知識や考えたことを活用し、社会の一員として自身の進路選択や今後の人生に生かそうとしている。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	知識:現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。 技能:諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れ、他者に自分の構想したことを発表する力を養う。	より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。また、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方や生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う一人の公民として、我が国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	公共的な空間を作る私たち	・大人ってどんな人 **・お互いを理解し尊重するために** **・誰もが生きやすい社会へ**	a:青年期は自立や自律を図る重要な時期であることを理解できている。伝統や文化、宗教などを背景にして現代の社会が成り立っていることが理解できている。古代から近代の日本の思想家の思想内容が理解できている。社会が、様々な背景を持つ多様な人々から成り立っていることを理解できている。 b:自己形成の課題について考察できている。先哲の思想や伝統・文化・宗教が自分自身の生き方に与えている影響に気付くことができている。 c:自らを成長させる人間としての在り方や生き方とはどのようなものか主体的に追究できている。先哲の思想や生き方から自分自身の生き方を検証し、主体的に追究できている。自主的に公共的な空間を作り出そうとする自立した主体であるという自覚した行動をとることができている。	定期考査	定期考査 ワークシート	学習状況の観察

	公共的な空間における人間としてのあり方生き方	**・西洋近現代の思想** **・現代の諸課題と倫理**	a:近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容が理解できている。地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。 b:先哲の思想や生き方から自分自身の生き方を検証し、公共的な空間を作る主体として自己の生き方について考察できている。公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察するための選択の手掛かりが考察できている。 c:選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し身につけようとしている。選択・判断の手掛かりとなる考え方を使って、現代の諸課題を主体的に追究できている。	定期考査 小テスト	定期考査 ワークシート	学習状況の観察
	公共的な空間における基本原理	・民主社会の基本原理 ・日本社会の基本原理	a:人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本原理について理解できている。日本国憲法の基本原理や人権保の原理が理解できている。 b:基本的原理を考察することで、個人と社会との関わりを多面的・多角的に考察することができている。日本国憲法の基礎にある考え方に着目し、公共的な空間における基本的原理との関連を考察することができている。 c:民主政治が自身の生活と関係していることを理解し、民主社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。日本国憲法で保障されている権利が理解でき、自らの生き方と権利を結びつけることができている。	定期考査 小テスト	定期考査 ワークシート	学習状況の観察

後期	ルールをつくり守る私たち	・法と契約 ・司法参加の意義	a:法や規範の意義や役割が理解できている。公正な裁判には司法権の独立が必要であり、国民の参加が大切であることが理解できている。 b:日常の買い物など、身近な契約の例を挙げることができる。裁判員制度がどのような目的で創設されたか考察できている。 c:身近な紛争状況を設定し、それを解決するためのルール作りを体験的に行うことができる。司法に関心を持ち裁判員制度の意義をふまえ積極的に参画する自覚を持つことができている。	定期考査 小テスト	定期考査 ワークシート	学習状況の観察
	政治に参加する私たち	・政治参加と民主政治の課題 ・国際政治の動向 ・国際政治の課題と日本の役割	a: 地方自治や選挙の仕組み、政党の役割を考察することによって具体的な制度を理解できている。国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割が理解できている。国際連盟と国際連合の組織と役割が理解できている。冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れが理解できている。国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割が理解できている。核軍拡から核軍縮への流れが理解できている。現代の紛争や人権問題について理解できている。 b:選挙制度の違いによって、政党制にも違いが出ることを考察できている。国連の現状と課題について考察できている。国際問題について意見を持ち、他者に説明できている。 c:模擬投票を通して、選挙に積極的に参加する主権者としての自覚を持つことができている。報道される国際紛争に関心が持てている。	定期考査 小テスト	定期考査 ワークシート	学習状況の観察

	経済活動を行う私たち	・経済の仕組みと産業の変化 ・市場経済の仕組みと金融 ・財政と社会保障 ・国際経済の動向と課題	a:企業の果たす役割が理解できている。中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できている。産業構造の変化と職業選択との関係や、雇用・労働問題について理解できている。市場経済のメカニズムが理解できている。経済指標を理解している。 金融のしくみを理解している。政府が経済に果たしている役割を理解できている。財政のしくみを理解している。社会保障について理解できている。貿易や外国為替相場について、そのしくみが理解できている。戦後の国際経済の流れが理解できている。途上国の現状を知り、貧困の原因や課題を理解できている。 b:企業倫理について考察できている。経済のサービス化が進展し、国民生活にどのような変化をもたらしたか考察できている。需給曲線を使って、どのような場合に価格が変動するのか考察できている。自身の老後生活を予想し、租税と社会保障とのバランスを考察できている。経済のグローバル化と相互依存関係が深まっていることを理解し、それが日本経済にどのような影響を及ぼしているかを考察できている。 c: 経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について見通しが立てられている。商品の価格は需給関係によって変動するものもあることを理解し、合理的は消費行動がとれている。自分たちの日常生活が国際経済と不可分であることを自覚できている。	定期考査 小テスト	定期考査 ワークシート	学習状況の観察

	持続可能な社会づくりの主体となる私たち	・課題探究の観点 ・課題探究の手引き	a:現代社会に生きる私たちの課題を指摘できている。現代社会の諸問題について、探究するための資料を収集・選択し、的確に分析できている。 b:現代社会の諸問題の解決のために、事実を基に協働して考察、構想することができている。現代社会の諸問題を多角的・多面的に考察し、その内容をレポートや口頭発表によって表現できている。 c:多様な課題の中で、自己との関係に注目して主体的に課題を選択し、探究できている。	定期考査	定期考査 ワークシート	学習状況の観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度